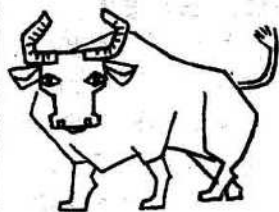


柿 生 文 化

平成21年 1月16日  
川崎市立柿生中学校  
郷土史料館情報・研究誌  
第 6号

## あけましておめでとうございます

校長 板倉敏郎



昨年、暮れの12月に清水寺恒例の行事で、貫主が一年間の世相を一文字で表していました。その文字は「変」でした。総理大臣が短期間で交替したり、経済が大きく変化したり人々の価値観も何か変わってきているのではないかという事なのではないでしょうか。

今年こそは良い方向への変革であることを祈っております。

平成21年が皆様にとりまして幸多い年になりますようお祈り申し上げます。

どうも、世の中が暗くなってきましたと仕方のないことなのでしょうが新聞や週刊誌、雑誌などは多くが経済状況の悪化や政治の混迷、スキャンダルについて大幅に紙面が割かれています。当然、内容的にも「マイナス」の話が多くなっているようです。前向きで建設的な記事の少ないことには心が痛みます。できたらもっと明るく元気ができるような記事が、もっともっと欲しいものだと思っております。「マイナス」の会話や文章からは、怒りや落胆しか生まれてきません。だからこそ前向きで建設的な「プラス」の言葉や取り組みが必要であると痛感しております。

今年本校の取り組みとして、文化的活動のカルチャーセミナーをより充実させてまいりたいと思っております。多くの方々のご参加をお待ちいたします。また、本誌「柿生文化」も内容をさらに充実してまいりたいと思っております。ご意見、ご感想等ございましたらご遠慮なくお寄せいただけましたら幸いです。

### 郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

現在、柿生・岡上に関する歴史的史料を探しています。ご自宅で保管されている史料でお譲りいただけるものや、一時お貸しいただける史料がございましたらお知らせください。

寄贈・寄託いただきました史料に関しては、川崎市民ミュージアムと連携しながら良好な環境で保管し、厳重な管理のもと、授業に活用するとともに地域住民の方々に広く公開していきます。

- ・江戸時代の古文書・江戸時代の読み本(よみほん)や暦
- ・検地帳、水帳 ・五人組帳 ・宗門改帳 ・高札 ・地図
- ・明治から昭和期の教科書 ・地域の産業に関する史料(特に炭、養蚕、他の特産品に関するもの) ・明治から大正期の新聞
- ・生活古民具 ・教育関係史料・小型農具(千歯こき、備中鋏)
- ・考古史料(土器、石器類)などよろしくお願ひいたします。

シリーズ「麻生のルーツを探る」－ 第5話－

## 古墳の博物館「稲荷前遺跡」



(稲荷前遺跡より眺む)

お隣の青葉区大場町に、稲荷前古墳と呼ぶ遺跡があります。大場町というところは、遠いところに感じますが、柿生村が川崎市に合併するまでは同じ都筑郡で下麻生、早野からは、距離的にも栗木、黒川よりも近く、鶴見川の流域にあります。

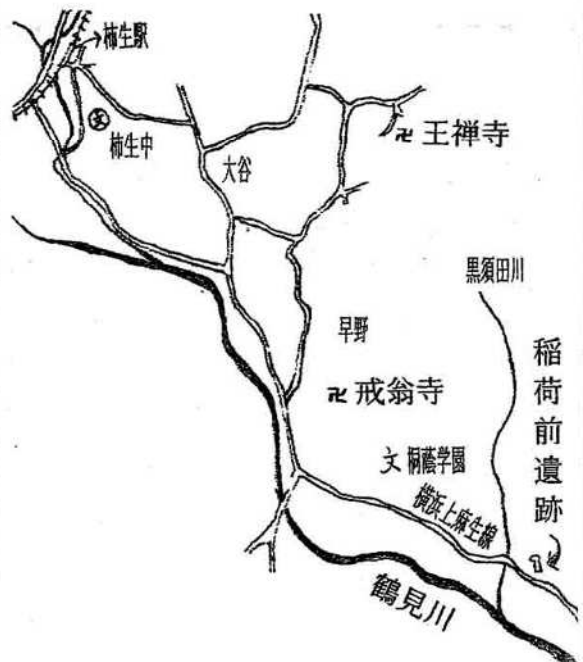
昭和41年宅地造成の際発見されたこの遺跡は発掘が進むにつれ様々な古墳が姿を現し、その規模は関東地方では最古最大、4世紀半から7世紀半にわたるもので、当時「古墳博物館」と言われ

大変な話題を呼びました。私もその時その現場に行き、ブルドーザーで崩された跡を覗いてみましたが、説明を聞くと前方後円墳2基、後方墳1基、円墳4基、方墳3基、他に横穴墳多数とのことで現場の人は、興奮気味でした。

前方後円墳は、ご承知の通り仁徳天皇陵に代表される大和朝廷の墳墓で、地方にあるものは、その支配下にある地方豪族の墓とされています。そうしてみると4世紀半ごろは、この地方は、大和朝廷の影響下にあり、これだけの古墳を築く文化をもつ先住民がいたことを物語っています。

大場町の隣の市ヶ尾に、これも開発の際「朝光台遺跡」が発見されました。この遺跡は、稲作を中心に暮らす集団住居(ムラ)跡で、調査の結果ムラの周りに溝をめぐらす住居跡7~80軒の典型的な環濠集落であることが分かりました。その後、開発に伴う遺跡調査で、こうした遺跡が次々発見され、研究者の調べでは、鶴見川流域の環濠集落は10カ所、濠のない集落は50カ所以上を数えるそうです。現在、発掘中の早野戒翁寺台遺跡もそのひとつなのでしょう。それは、1万年2千年前にさかのぼる縄文人の末裔が期を経て大和人(弥生人)と和合、当時の地域文化を造ったのではないのでしょうか。

稲荷前古墳からは、期待された大和朝廷に関する銅鏡などは出土しませんでした。そして、時代を追って築造された古墳からの副葬品も権力者の墓とすると極めて質素だったようです。現在、この遺跡は史跡指定され横浜市が前方後円墳など3基を保存し公園化しています。(柿生駅北口より市ヶ尾行きバス、水道事務所前下車、駐車場あります。) 海拔60メートルの古墳の上に立つと眼下に鶴見川、その眺望に驚かされますが、私がさらに驚いたことは、3基の古墳の北一直線上間近に、古刹王禅寺があることでした。 参考:鶴見川の流域考古学(坂本彰 氏著作)



文：小島一也氏

# 「ミカリ婆さん考」Ⅱ

## 昔、柿生にあった 伝承を探る

— 麻生区各地域のミカリ婆さん伝承を調べる —

伝承地	日付	名	称	訪れるもの	対策	供物・食事	禁忌	伝承・その他
細山(北谷)	12月8日・2月8日	ヨウカゾウ		ミカリバアサン	芋フリミケを玄間に立てる 供え物【流し・蘿蔔】	ソバ		伝承・その他 毎日8日を厄日といっていて鎌 ミカリバアサンは厄病神
細山(大久保)	12月8日・2月8日	ヨウカゾウ コト納め・コト始め		ミカリバアサン	目ザルを立てる 目ザル裏でツミの水を燃やす	ソバ・団子	月の8日に旅立つな 厄日なので吉事は避ける	一つ目の厄病神
細山	12月8日・2月8日	メカリバアサン		メカリバアサン	ザルを腰根の上に立てる		履き物を外に置かない	メカリバアサンに履き物に刺さ りかねると大変する 目を磨りて行く
細山	12月8日・2月8日	ヨウカゾウ		メカリバアサン	芋フリザルを軒下に立てる	ウドン(ソバ)を食べる		恐ろしい妖怪
早野	12月8日・2月8日	ヨウカドウ		メカリバアサン	芋フリザルを立てる	ケンチン汁に小豆を入れて食べる	川を越えてはいけな	
古沢	12月8日・2月8日	メカリバアサン		メカリバアサン	芋フルイの籠を手にさして庭に 立てる	ソバを作る		怖いもの
上麻川	12月8日・2月8日	ヨウカゾウ		メカリバアサン 一つ目小僧	ザルを軒に立てる 夜、部屋裏でツミの水を燃やす	神棚にソバを供える		一つ目小僧は赤い目玉、災厄を 持つと回る 縁付けバアサンは履き物に印を すると必ず災病にかか れると必ず災病にかか る
下麻川	12月8日・2月8日	ヨウカゾウ		一つ目小僧 縁付けバアサン	目籠を立てる(あるいは吊るす) 一晩中、部屋裏でツミの水を燃 やす		晩、履き物を外へ置いてはいけ ない	縁付けバアサンに名前を付けら れると必ず災病にかか る
黒川	12月8日・2月8日	ヨウカドウ		目なしバアサン	籠を立てる	ソバを食べる		厄病を追い払う行事
柿生	12月8日・2月8日			メカリバアサン	芋の先に目ザルをつけて立てる 山のツミを燃やす		遠出を避ける	メカリバアサンは鎌子の穴から 覗いて子供をさらう
岡上	12月8日・2月8日			一つ目小僧	12月8日/芋フリ籠を立てる 2月8日/梅刺り籠を立てる 2月8日/ツミの水を燃やす	12月8日/油物・ケンチン汁	履き物を外に出してはいけな	ツミのおいを喰くと厄病をひ かない

今回は、麻生区内の「ミカリ婆さん」伝説について調べてみました。

左の図は、以前、柿中カルチャーセミナーの講師としてお越しいただいた市民ミュージアムの高橋典子氏が『川崎市市民ミュージアム紀要』(1994年)に発表された『川崎のヨウカゾウとミカリバアサン』より抜粋したものです。この、資料を見てみますと麻生区11カ所の調査によるものですが、ほとんどの地域で「ミカリ婆さん」の姿は、「負」のイメージの強い姿で語られています。同じ川崎市内でも宮前区の馬絹や有馬では逆に良い印象をもっているものとは対照的です。この表のなかで気付くことは、麻生区の場合、多くが「メカリ婆さん」と表現されていることです。上麻生にお住まいの方からのお話でも同じ「メカリ」と表現がされておりまして。他の区では多摩区の栗谷・菅仙谷の2カ所以外では「ミカリ婆さん」と表現されています。

麻生区の「メカリ婆さん」に対する考え方は、どうも他の地域に比べてまた別の要素が加わっているように思えてなりません。「メカリ」とは「目欠き」の意味をもっているようにも感じます。

そもそも全国的には12月8日と2月8日は「八日僧」と言われ、物忌みの日で、一つ目小僧が出現し災いをもたらすとされています。川崎の場合は、多くの地域がこの日に一つ目の「ミカリ(刈)婆さん」が登場することになっています。「一つ目小僧」と「ミカリ(刈)婆さん」が合体した姿で表されています。

ここで新たな疑問がでてまいります。それは、「一つ目小僧」の正体と「ミカリ(刈)婆さん」の原型はいったい何であったのかという事です。また、なぜこの両者が結びついたのであるのかという疑問もできます。この話し、しばらく続きそうです。……



### 今から1万年前、海に何が起き始めたのか 縄文海進の謎を解く・なぜ海水が陸地に浸入してきたのか・当時の麻生区は？

先月号の「柿生文化」第5号に縄文海進の話がでてまいりました。読者の方から、もっと詳しく知りたいというご意見が寄せられましたので「縄文海進」について考えてみたいと思います。

今から約1万年前、長い氷河期が終わり地球の気温が少しずつ上昇し始めていました。それにともなって氷が溶け、海水面が高くなり、低地は水のなかに沈んでいきました。最も海進が進んだのは今から約6～7000年前で、下の図のように、多摩川流域では現在の河口からおよそ15キロメートル上流の中原区宮内と高津区千年を結ぶ線付近までが海に、鶴見川低地では、河口からおよそ18キロメートル上流の横浜市緑区鴨居付近まで浸入して古鶴見湾となっていました。そして、これらの海岸近くでは人々の生活が営まれ各地で貝塚が形成されました。やがて、陸地に深く入り込んだ海は、川から流されてくる土砂が積もり平野と変わっていくのでした。現在の川崎区・中原区・幸区の平坦な地域は、そのようにして出来上がっていったものと思われます。8000年前から比べると6000千年前には、気温で約3度上がり、海水面は約5メートル程上昇していました。これを考えると地球の温暖化問題は、深刻な問題となってくるわけです。

縄文海進最盛期の頃の海岸線

